

スウェーデンにおける SOGI に基づく差別へのとりくみ

——平等オンブズマンと性指向オンブズマン——

○四国学院大学 大山治彦

佛教大学 大東貢生

京都大学 伊藤公雄

関西大学 多賀太

1. 目的

本報告の目的は、スウェーデンにおいて SOGI による差別問題を担当するオンブズマンの活動について整理することで、わが国の行政等による政策、施策等への示唆を得ることである。具体的には、現在、SOGI を含む 7 つの領域を担当するオンブズマンである平等オンブズマン (DO) と、その前身の一つである、性指向オンブズマン (HomO) を取り上げる。

2. 方法

非構造化面接法による面接調査をおこなった。対象者は、DO の広報担当者 A 氏と、旧 HomO については、オンブズマンであった B 氏であった。調査日時はいずれも、2018 年 9 月 7 日で、調査場所は、事務所の所在地等であった。なお、調査は、本学会の倫理綱領にもとづく研究指針等に従って実施した。

3. 結果

1) 平等オンブズマン 平等オンブズマン (DO) は、2009 年 1 月に、新しい差別禁止法の施行に合わせて、誕生した。DO は、4 つあったオンブズマンを統合したもので、次の 7 領域の差別問題を担当している。それは、①性別、②性同一性および性表現、③エスニシティ、④宗教やその他の信念、⑤障がい、⑥性指向、⑦年齢であり、②、④、⑦が新たに追加された領域である。現在のオンブズマンは女性である。2017 年度に DO が扱った相談は 2,475 件で、うち、障がい (748 件)、エスニシティ (710 件) が目立ち、次いで性別 (350 件)、年齢 (274 件)、宗教やその他の信念 (218 件) で、性指向は 67 件、性同一性および性表現は 59 件であった。このように、毎年 2000 件を超える苦情が寄せられるが、すべてに十分な対応をすることは、事実上、不可能である。そのため、社会的に重要な案件を選び、個々人の問題を解決するというよりは、予防を含めて、制度づくり等の環境整備に繋がるような、波及効果が高い活動に重点をおいているという。

2) 性指向オンブズマン 性指向オンブズマン (HomO) は、1999 年に設立され、約 10 年間、独立したオンブズマンとして、活動した。一貫してオンブズマンを務めていたのは B 氏で、彼は、弁護士資格をもち、かつ、性指向に関する問題に詳しいため任命されたという。また、彼はスウェーデンの LGBTQ (HBTQ) の全国組織である RFSL の会長を務めたこともあった。なお、RFSL は、このオンブズマンの設置を強く働きかけていたという。HomO の規模は最大でも 11 人と小さなものであった。しかし、同性間の法律婚の実現や、労働や教育の分野における差別の解消等に、尽力したという。そして、その活動から得られた教訓として、彼は次の 4 つを上げた。それは、①社会における古い価値観や行動は変えられるということ、②社会の変化を成し遂げるには法律が必須であること、しかし、③それだけでは十分ではなく、罰則等の措置も必要であること、また、④それには積極的な教育と情報提供という予防策を併用しなければならないこと、であった。

4. 結論

オンブズマン統合のメリットは、複数の差別問題を含むケースを一か所でトータルに扱えるようになったことである。しかし、統合前に、性指向による差別を専門に扱う組織が存在したがゆえに、統合後も、SOGI による差別が対応すべき重要な課題であると、明確に認識されているといえる。わが国の行政等による SOGI 差別に関する政策、施策等にも参考となろう。

※本報告は、日本学術振興会の科学研究費 (18H00937、18K11911) の助成による研究成果の一部である。